



「西原劇場 開幕」

「笑いあり、大笑いありの最高の劇をどうぞお楽しみください。」と、3年生のナレーションで始まった西原小学校の学芸会。4年ぶりの実施となりました。

コロナ禍の2年前は、高学年がテーマを決め、映画を撮り披露しました。子供たちの思いが詰まった素敵な作品でした。今回は、新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、みんなで舞台の上で演じて、観客に見てもらおう学芸会となりました。1～4年生にとっては初めての学芸会、5・6年生も久しぶりの演じる機会です。

子供たちはもちろん、教職員も久しぶりの学芸会です。感染症対策を含め、これまでと同じとはいかず、少しずつ考えながら準備していきました。うまくいかなかったこともありましたが、「子供たちが主役」であることを大事に、達成感を味わえるようにするためにはどうするかを主に、準備をすすめ、計画が練り直されました。

台本を作ること、役を決めていくこと、練習の過程、衣装や動き、照明に大道具、小道具、音響…毎日、様々な出来事がありました。子供たち一人一人にとっても、目まぐるしい毎日だったことでしょう。

学校行事は、全校または学年の児童で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、特別活動の目標である資質・能力を伸ばすことを目標としています。

実際に見ていただくのは鑑賞日当日ですが、実は、そのの至るまでの経過を通して、子供たちは多様な他者と協働する上で、必要なことを理解し、行動の仕方を身に付けたり、課題を見出して、解決するための行動について考えたりする資質・能力を伸ばしてきました。これらの積み重ねが、やがて、自己の生き方についての考えを深めることにつながっていきます。

周りから見たら小さな「一人一人のドラマ」が、子供たちの成長につながっているのです。それを支えてくださったご家庭の皆さんも、学芸会の大切な立役者です。

学芸会の鑑賞日当日の保護者の皆さんの姿や力にも、大いに影響を受けました。すすんでお手伝いをしてくださった皆さん。マナーを守って、子供たちの劇を楽しんでくださった皆さん。たくさん拍手が子供たちの充実感を向上することにつながりました。おうちでもきっとほめていただけたことでしょう。それが、子供たちの励みになり、次への活力となることでしょう。

大勢の気持ちが集まった学芸会。笑いも涙もあった学芸会。次への成長を楽しみに、幕を閉じました。

校長 曾我 泉



1年生 火のリレー
自分と周りとの動きを合わせて



2年生 スイミー
みんなで力を合わせる姿があちこちに



3年生 だるま学校
キャラクターに合わせた表現を工夫



4年生 ごんぎつね
せつない気持ちをみんなで表現



5年生 ウィキッド
迫力のある歌や踊り 世界観をみんなで



6年生 魔法をすてたマジョリン
自分たちで演出した演技 考えを生かした